

## ぽんたと かんた

ぽんたと かんたは だいの  
なかよしです。

きょうも がっこうから かえったら  
いっしょに あそぶ やくそくを して  
いました。

ぽんたが こうえんに いくと、  
かんたは さきに きて いました。

かんたは、こうえんの うらやまで  
ひみつきちを みつけたと よろこんで  
います。



「ふたりで いこうよ。」

かんたは ぽんたを

さそいます。

「だめだよ。うらやまは

は いったい いけないと

いわれて いるよ。」

「へいき、へいき。」

かんたは ぽんたの

いうことを きかないで、

さっさと うらやまに いった

いきました。



ひとりに なった ぽんたは、じつと かんがえて いました。  
「ぼくも かんたの ように あそびたいな。でも……。」

しばらくして ぽんたは、おおきな こえで いいました。

「ぼくは いかないよ。だって あぶないから。」

そのこえが とても おおきかったので、かんたが びっくり  
して うらやまから とびだして きました。



「ぼんた、どうしたんだい。」  
「ぼくは いかない。よく かんがえて きめたんだ。だって、  
うらやまは あぶないから。」  
もういちど はつきりと いいました。

かんたは、だまって かんがえて いました。そして、きっぱり  
と いいました。

「ぼくも いかない。じぶんで かんがえて きめた。」  
ぼんたは、にっこり わらって  
うなずきました。

ふたりは なかよく ぶらんこに  
ゆられています。  
きもちの よい かぜが ほほを  
なでて きました。

